

Summary, 21 October, 2020

日時：2020年10月21日 18:00～19:00

場所：Zoomによるオンライン開催

「バントゥ諸語における否定とフォーカスのインタラクション：

マイクロバリエーション研究からのアプローチ」

発表者：品川大輔（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所准教授 / バントゥ諸語、記述言語学）

本発表は、バントゥ諸語（ニジェール・コンゴ語族、ベヌエ・コンゴ語派）に見られる否定表示と焦点表示に関して、それらにはどのような構造的多様性があり、多様な構造はどのように類型化され、そして各類型間にはどのようなパターンが見出されるのかについて、いわゆるマイクロバリエーション研究の枠組みを用いて論じた。まず対象であるバントゥ諸語に関する系統的またマクロな言語特徴について概観したのちに、方法的基盤をなすマイクロバリエーション研究について概説した。マイクロ類型論（micro-typology）としての、あるいは系統内類型論（areal typology）としてのマイクロバリエーション研究の概略は、例えば Daniel (2011)などに簡潔にまとめられているが、とくにマクロ類型論との対比という意味では、その限界としての代表性（representativeness）の問題と細密性（granularity）の問題を乗り越えるうえで有効な方法であるとともに、マクロな構造的類似性を共有しつつも細部の構造的なバリエーションに富むバントゥ諸語は、その理想的な適用対象と言えることを確認した。そのうえで、本研究の依拠する資料体であり、発表者もその構築に関与したオンラインデータベース「Bantu Morphosyntactic Variation Database」（SOASの研究プロジェクト「Morphosyntactic variation in Bantu: Typology, contact and change (<https://www.soas.ac.uk/linguistics/morphosyntactic-variation-in-bantu/>)」による開発され、142の形態統語論的パラメータ（Guérois et al. 2017）に関する139言語からのデータを集約。現在は研究者コミュニティのみに限定公開）から、否定表示に関する4つのパラメータと焦点表示に関する1つのパラメータのデータを抽出し、その相関に関する分析結果を通して、両者の分布には一定の類型的傾向性が観察されることを論じた。（文献情報はレジюмеを参照）